

令和8年度

教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号	6611	学校名	阿木高等学校
------	------	-----	--------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	生徒の多様性を尊重し、生徒の学びを保障する定時制高校として、「わかります。できます。やります。」を実感できるように、きめ細やかな指導や支援を通して、周囲の人と協働し地域に貢献できる人材の育成を目指す学校		
学校教育目標 (教育方針)	「親和・自治・勤労」の校訓を踏まえ、知・徳・体の調和のとれた心豊かな生徒を育成するとともに、有為な地域社会人を育成する		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を育てたいか 【G P】	・豊かな心と他人を思いやる心を持った生徒 ・心身ともにたくましく、忍耐力のある生徒 ・自ら学び、考え、行動する生徒 ・周囲の人と協働できる生徒	
	生徒をどう育てるか 【C P】	・農業もしくは家庭（保育福祉・生活衣食）の専門学習を通した課題発見力・課題解決力の育成 ・少人数指導による「わかる授業」の展開、および「主体的・対話的で深い学び」や「探究的な学び」の推進 ・社会生活に必要な基礎学力を身に付ける「学び直し」授業の推進	
	どんな生徒を待っているか 【A P】	・学校行事や地域交流などの校外の活動に積極的に参加し、よい良い学校や社会を築いていこうという意欲のある生徒 ・自ら学ぶ態度と基礎的・基本的な学習を身に付けたい生徒 ・自身も他者に対しても、優しい気持ちと言葉で接することができる生徒	
学校の抱える課題	・生徒の多様な学習ニーズに対応するために実態を把握し「組織的な対応・支援体制・指導形態」を検討し改善する ・生徒の自立に向けて最低限必要な生活習慣、基本的な学力・知識・技術、コミュニケーション能力等を身に付けさせる ・生徒の適性や進路等に応じて必要となる資質や能力を身に付けさせる		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学習指導	地域社会で自立して生きるために必要な基礎学力の定着と専門学習を通して主体的な学習態度を育成するための授業改善を図る	
	進路指導	個に応じたキャリア教育の充実を図り、生徒の進路実現を支援する	
	生徒指導	教育相談や特別支援教育を充実させ、生徒・保護者に寄り添った支援を工夫する	
	教員研修	教員研修を充実させ、全職員が多様な生徒一人ひとりと保護者に寄り添った学習・生活指導や支援ができるようにする	
教育職員の業務量管理・健康確保措置の実施	・日々の業務内容を見直し、職員が休みを取得しやすい環境を作り出す ・担任業務や行事の運営等、学年や組織で対応・運営していけるように支援をする		

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学習指導	義務教育段階の学習内容の確実な定着をさせるために、 学び直し科目の充実を図る	施策Ⅳ-23	①生徒による「授業評価アンケート」 ○関係項目のA、B評価 80%以上を目標 ②授業改善のための授業参観の実施 ○評価指数B段階を目標 ③生徒・保護者による「学校評価アンケート」 ○「満足」指数80%以上				
	授業改善(ICTの活用)により生徒の意欲・関心を刺激し、 基本的な知識・技能を身に付ける中で、「わかる・できる」喜びを実感させる	施策Ⅱ-9					
	言語活動を大切にし、表現力、思考力、コミュニケーション能力等、 社会生活(専門科目)に必要な協働する力を高めさせる	施策Ⅱ-8					
	将来のスペシャリストの育成のために必要な知識や技術を 身に付けるため、地域連携、外部人材の活用や地域資源を生かした 探究活動などを推進させる	施策Ⅱ-14					
進路指導	進路行事を通して、自己の適性や能力、興味関心に合った 進路選択ができるようにする	施策Ⅱ-13	①進路実現率 ○内定率の目標100% ②キャリアコンサルティング面談後のアンケート ○進路選択のために有意義な成果が認められる ③生徒の自己評価アンケート ○「満足」指数80%以上				
	地域社会と積極的に連携し、思いやりや奉仕の心、行動力、 責任感など社会性の向上に努める	施策Ⅰ-4					
	キャリアコンサルティング面談やインターンシップを通して 自己理解を深め、個に応じた進路選択を支援する	施策Ⅱ-14					
	各教科や学校行事、実習等の体験を通して、自己理解を 深め、自信をもって社会に出られるようにする	施策Ⅰ-1					
生徒指導	生徒・保護者との信頼関係を構築し、安心・安全な学校生活が 送れるよう丁寧な支援を心掛ける	施策Ⅰ-3	①生徒・保護者による「学校評価アンケート」 ○関係項目のA、B評価80%以上を目標 ②教育相談、三者懇談での関わり ○学校生活の満足度を判定基準とする ③個別的教育支援計画、個別指導カルテの活用 ○個に応じた支援・指導を行えたかを判断				
	日々の学校生活や各種行事や特別活動を通じて、社会性や 適切な人間関係を身に付けさせる	施策Ⅰ-1					
	地域連携や専門学科の学習・体験を通して、自己肯定感、 自己効力感や自己有用感を高める支援を行う	施策Ⅳ-20					
	共感的な指導、人権に配慮した指導を実践するとともに、 問題行動等の未然防止、早期発見や早期対応を図る	施策Ⅲ-19					
教員研修	職員の資質向上を図る研修を積極的に実施する	施策Ⅳ-26	①各職員の研修受講状況 ②時間外勤務状況や年次休暇等の取得状況 ③学校評価アンケートや学校運営協議会等からの意見				
	特別支援コーディネーターを中心とした、生徒情報交換会を 定期的・必要に応じて行い職員間の共通理解を図り、多様な 生徒に対応した研修会を実施する	施策Ⅳ-21					
	生徒の多様で複雑なニーズを理解し、適切な支援に繋げていく ために、保護者や家庭、外部機関や専門家との連携を強化する	施策Ⅳ-20					
	職員の服務規定や適正な勤務や効率化、心のケアに関する 研修等を実施し、教職員が生き生きと働くことができる環境を 整える	施策Ⅳ-27					

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和9年 月 日

学校関係者評価

実施日：令和9年 月 日